

9 . 第 14 回 ソフトボール競技実施要項

1.競技種目

男子ソフトボールとする。

2.競技規定

大会開催年度の(財)日本ソフトボール協会オフィシャル・ルール及び本大会申合せ事項による。

3. 出場資格

ブロック予選大会において、優勝・準優勝の各 1 チームに開催地元チーム 1 チームを加えた計 19 チーム以内とする。なお、開催地チームが予選大会において優勝又は準優勝の場合は、地元開催チームの権利を失うものとし、出場チーム数は 18 チーム以内になるものとする。

但し、優勝・準優勝チームが本大会に出場できない場合は、当該ブロックの協議により、代替チームが出場できるが、代替チームに関する責任は代替チームを選出した当該ブロックが全て負う。

出場するチームは1チームで、当該ブロック内の他のチームから選手を2名以内で補強することができる。

上記の規定にかかわらず、出場できるのは 1 都道府県につき 2 チームを原則とする。

上記「 」によっても、19か18チーム未満の場合は前年度予選大会での各ブロック内のチーム数の多い順から1チームずつ推薦する。この配分順は大会年度の前年度日本ろう者スポーツ協会全国委員会で抽選等により決定する。(12.その他の に注意)

4. チームの編成

1 チームの編成は、監督を含む選手 20 名以内とする。

コーチまたはマネージャー、スコアラーが選手として出場することはできるが、選手として出場する場合は、20 名の範囲内で登録しなければならない。

監督の背番号は 30 番、主将の背番号は 10 番とする。

5. 試合球

検定ゴム 3 号球(内外)とする。

6. 競技方法

対戦方法はトーナメント方式とする。

試合は、7 イニング制と時間制を併用し、どちらか先に達した時点で試合終了とする。7 回を終了して同点の場合は 8 回よりタイブレーカーを適用する。

ア. 80 分を越えて新しいイニングに入らないものとする。

イ. 7 イニングまで達した場合は、規定時間に達していなくても終了とする。

ウ. 5 回以後 7 点差の場合はコールドゲームとする。但し、決勝戦を除く。

エ. 決勝戦は 7 回とする。同点の場合は 8 回よりタイブレーカーを適用する。時間制限なし。

オ. タイブレーカーは継続打順とし、前回の最終打者を 2 塁走者とし、無死 2 塁の状態から 1 イニングを行い、得点の多いチームを勝ちとする。

なお、タイブレーカーを実施しても勝敗が決しない場合、抽選により勝敗を決定する。(決勝戦を除く)

また、時間切れが生じたとき同点の場合は次回よりタイブレーカーを適用する。

7. 表彰

決勝戦終了後、閉会式において行う。

個人賞のうち選考最優秀打者賞は、ベスト3チームの全試合を選考基準対象とし、指定打席(12打席)を設けて、最高打率によるものとする。

8. 組み合わせ

監督・主将等合同会議において、大会の組合せ抽選を行う。

9. 競技用具

バット、ヘルメット(JSA)の点検をし、規定以外のもの及び危険と思われる用具は、試合終了まで、競技場本部席で保管する。試合終了後、受け取りにくること。

一チームの選手のユニフォームは同色、同衣装で統一された品位あるものであること。また、帽子は同一のものとする。靴は同色のものを使用しなければならない。

背番号は監督 30 番・コーチ 31 番 32 番・主将 10 番・選手は1番から 99 番までとする。胸番号も同一とし胸に付けなければならない。

攻撃中の打者、走者はヘルメットを着用しなければならない。

守備中の捕手は、スロートガード付きマスク、ヘルメット、レガースを着用しなければならない。または、ボディプロテクターを着用しなければならない。

コーチボックスではヘルメットを着用しなければならない。

準備投球の時、競技場内のいかなる場所で投球練習する時でも、捕球する者は必ずスロートガード付マスク・捕手用ヘルメットを着用しなければならない。

金属製スパイク使用は認めない。また、危険行為をした場合は退場とする

10. 注意事項

(1) 競技開始まで

試合開始予定時刻の 30 分前、または前の試合 5 回終了時まで、試合会場に集合すること。遅れた場合は原則として棄権とみなす。

打順表は、試合開始予定時刻の 30 分前、または前の試合 5 回終了時まで、打順表(4 枚 1 組複写)に必要事項を記入し、必ずふりがなをつけて球場本部に提出すること。相手のチーム打順表は審判・記録員の照合 確認のうえ審判員より受けとる。

攻守順の決定は、打順表提出時、審判員立会いのもと「コイン」のトスによって決定する。「コイン」の裏表は先着(打順表持参)チームに優先権を与える。

競技者席は組み合わせ番号の若い方を一塁側とする。ベンチに入る人数は要項で定められた者以内とする。

フィールディング

(ア) 競技場に入ることを許されたメンバーで行うこと。

(イ) 後攻チームより 5 分間とし、審判員の指示に従うこと。

(ウ) 大会進行上、時間の短縮及び省略することもある

(2) 競技開始

「集合準備」の指示で自己のベンチ前に一列横隊に立つ。

「集合」の号令と同時に駆け足でホームプレートをはさんで整列する。

(3) 攻守交替、選手交替

すべて駆け足で敏速に交替を行うこと。

選手の交替は、監督が球審にすみやかにその旨、通告すること。

再出場の時のみ、選手交替届出用紙を提出すること。

(4) 攻守交替のボール

特に指示がない場合はピッチャープレートの近くに置く。
試合終了時は審判員に渡す。

11. 競技場

ダブルベースを使用する。
外野フェンスを設営すること。

12. その他

審判員の判定に基づく判定に対して抗議することは許されない。ルール上の疑義については、監督またはコーチに限りこれをたずることができる

小雨でも決行するが、万一試合を中止、又は開始時刻を変更する場合は大会本部から各チームに連絡する。また、午前中雨天でも、天候の回復状況により試合を開始することもある。

第1試合開始前に始球式を行う。

実行委員会は大会参加申込締切後、参加チームが18か19に満たない場合、すぐ日本ろう者スポーツ協会事務局にその旨を伝えること。

13. 本要項の改正

- ・一部改正 2004年2月22日 第6回全国委員会
- ・一部改正 2006年2月19日 第8回全国委員会